

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン

令和4年度 自己点検・自己評価書

— 教員資格及び教育内容等の自己評価 —

令和 5(2023) 年 6 月

九州看護福祉大学

看護福祉学部 リハビリテーション学科

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況（令和5年5月1日現在）

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
看護福祉学部 リハビリテー ション学科	5人	1人	3人	5人	14人	8人	8人	0人	21人	16.6人	
計	5人	1人	3人	5人	14人	8人	8人	0人	21人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤	情報リテラシー	15	森 信之	専任
		生命倫理	6	柴田 恵子	専任
			2	村田 宮彦	兼任
			2	江崎 一朗	兼任
			3	川本 起久子	兼任
			1	檜枝 洋記	専任
			1	二宮 球美	専任
基礎	人間と生活	心理学	15	山住 賢司	専任
		教育学	15	桑嶋 晋平	専任
		法学	15	野崎 和義	専任
		カウンセリング論	15	忽那 かずみ	兼任
		体育	15	陶山 三千也	兼任
基礎	社会の理解	英語 I	15	池田 裕子	兼任
		英語 II	15	角田 俊治	兼任
		英会話 I	15	後藤 隆昭	専任
		手話	15	福田 九	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学 I	15	肥後 成美	専任
		解剖生理学 II	15	二科 安三	兼任
		解剖生理学 III	15	宮良 広大	専任

		解剖生理学演習	13	岡田 裕隆	専任		
			3	中野 聡太	専任		
		解剖生理学特講 (※)	2	肥後 成美	専任		
			2	大池 貴行	専任		
			2	中野 聡太	専任		
			2	今井 孝樹	専任		
			2	永松 隆	専任		
		機能解剖学Ⅰ	14	岡田 裕隆	専任		
			16	中野 聡太	専任		
		機能解剖学Ⅱ	10	岡田 裕隆	専任		
			20	中野 聡太	専任		
		運動生理学	15	松本 直幸	兼任		
		人間発達学	15	吉田 勇一	専任		
		専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	生活栄養学	15	村上 香	専任
		薬理学		15	徳富 芳子	専任	
		医用工学		4	徳富 芳子	専任	
				2	荒木 不次男	兼任	
				3	肥合 康弘	兼任	
				2	羽手村 昌宏	兼任	
				4	山住 浩介	兼任	
病態生理学Ⅰ	15	徳富 芳子		専任			
病態生理学Ⅱ	15	大河原 進		兼任			
病態生理学Ⅲ	15	大河原 進		兼任			
精神医学	15	肥後 成美		専任			
リハビリテーション 医学Ⅰ	5	角園 恵		専任			
	5	今井 孝樹		専任			
	5	吉里 雄伸		専任			
リハビリテーション 医学Ⅱ	12	大浦 佳子		専任			
	3	角園 恵		専任			
リハビリテーション 医学Ⅲ	6	川俣 幹雄		専任			
	6	森下 志子		専任			
	4	大池 貴行	専任				

専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	川俣 幹雄	専任
		老人理学療法学	9	森下 志子	専任
			6	中野 聡太	専任
専門	基礎理学療法学	運動学	15	今井 孝樹	専任
		運動学演習	15	今井 孝樹	専任
		バイオメカニクス	9	中野 聡太	専任
			6	今井 孝樹	専任
		バイオメカニクス演習	15	今井 孝樹	専任
		基礎理学療法学特講 (※)	1	中野 聡太	専任
			2	森下 志子	専任
			2	角園 恵	専任
			1	今井 孝樹	専任
			2	永松 隆	専任
		研究方法論	15	川俣 幹雄	専任
専門	理学療法管理学	理学療法概論	15	永松 隆	専任
専門	理学療法評価学	理学療法評価学 I	15	大池 貴行	専任
			13	中野 聡太	専任
			15	森下 志子	専任
			14	吉里 雄伸	専任
		理学療法評価学 II	15	大浦 佳子	専任
			15	角園 恵	専任
			14	吉里 雄伸	専任
			15	永松 隆	専任
		理学療法評価学 III	15	大池 貴行	専任
			15	森下 志子	専任
			15	吉田 勇一	専任
			15	吉里 雄伸	専任
		理学療法評価学 IV	15	岡田 裕隆	専任
			15	吉田 勇一	専任
			15	角園 恵	専任
			15	永松 隆	専任
		理学療法評価学	8	川俣 幹雄	専任

		演習	7	大池 貴行	専任
			7	岡田 裕隆	専任
			7	大浦 佳子	専任
			7	中野 聡太	専任
			7	森下 志子	専任
			15	吉田 勇一	専任
			15	角園 恵	専任
			7	今井 孝樹	専任
			7	吉里 雄伸	専任
			15	永松 隆	専任
専門	理学療法治療学	運動療法学	15	岡田 裕隆	専任
		運動療法学演習	22	岡田 裕隆	専任
			20	大浦 佳子	専任
			20	角園 恵	専任
		物理療法学	15	今井 孝樹	専任
		義肢・装具学	15	帆鷺 輝誌男	兼任
		日常生活行動学	15	大池 貴行	専任
		日常生活行動学演習	15	大池 貴行	専任
			16	中野 聡太	専任
		運動器理学療法学	5	角園 恵	専任
			5	吉里 雄伸	専任
			5	永松 隆	専任
		運動器理学療法学演習Ⅰ	5	角園 恵	専任
			5	吉里 雄伸	専任
			5	永松 隆	専任
		運動器理学療法学演習Ⅱ	10	角園 恵	専任
			10	吉里 雄伸	専任
			10	永松 隆	専任
		運動器理学療法学特講（※）	4	岡田 裕隆	専任
			1	中野 聡太	専任
			2	角園 恵	専任
			2	永松 隆	専任

			1	今井 孝樹	専任
			1	吉里 雄伸	専任
		神経心理学療法学	6	大浦 佳子	専任
			9	宮良 広大	専任
		神経心理学療法学 演習 I	11	大浦 佳子	専任
			4	宮良 広大	専任
		神経心理学療法学 演習 II	16	大浦 佳子	専任
			14	山本 良平	兼任
		神経心理学療法学 特講 (※)	4	大浦 佳子	専任
			4	吉田 勇一	専任
			2	宮良 広大	専任
		内部障害理学療 法学	7	川俣 幹雄	専任
			5	森下 志子	専任
			2	大池 貴行	専任
		内部障害理学療 法学演習 I	8	川俣 幹雄	専任
			7	大池 貴行	専任
		内部障害理学療 法学演習 II	15	川俣 幹雄	専任
			13	森下 志子	専任
			15	大池 貴行	専任
		内部障害理学療 法学特講 (※)	2	川俣 幹雄	専任
			6	森下 志子	専任
		スポーツ理学療 法学	15	吉里 雄伸	専任
		がんのリハビリ テーション学	10	森下 志子	専任
			5	中野 聡太	専任
		小児心理学療法学	15	吉田 勇一	専任
		小児心理学療法学 演習	15	吉田 勇一	専任
専門	地域心理学療法学	生活環境学	15	大浦 佳子	専任
		地域心理学療法学	15	今井 孝樹	専任
専門	臨床実習	地域見学実習	45h	川俣 幹雄	専任
			45h	岡田 裕隆	専任
			45h	大池 貴行	専任
			45h	大浦 佳子	専任

		45h	中野 聡太	専任
		45h	森下 志子	専任
		45h	吉田 勇一	専任
		45h	角園 恵	専任
		45h	今井 孝樹	専任
		45h	吉里 雄伸	専任
		45h	永松 隆	専任
	評価実習	450h	川俣 幹雄	専任
		450h	岡田 裕隆	専任
		450h	大池 貴行	専任
		450h	大浦 佳子	専任
		450h	中野 聡太	専任
		450h	森下 志子	専任
		450h	吉田 勇一	専任
		450h	角園 恵	専任
		450h	今井 孝樹	専任
		450h	吉里 雄伸	専任
		450h	永松 隆	専任
	臨床実習Ⅲ (※)	360h	川俣 幹雄	専任
		360h	岡田 裕隆	専任
		360h	大池 貴行	専任
		360h	大浦 佳子	専任
		360h	中野 聡太	専任
		360h	森下 志子	専任
		360h	吉田 勇一	専任
		360h	角園 恵	専任
		360h	今井 孝樹	専任
		360h	吉里 雄伸	専任
		360h	永松 隆	専任

1. 相当授業科目名の後の「(※)」は、2019年度の教育課程科目(旧カリキュラム)である。
2. 臨床実習(地域見学実習、評価実習、臨床実習Ⅲ)の担当コマ数欄は、実習時間数で表示している(1単位当たりの時間数:45時間)。
3. 当ガイドラインに一致しなかった科目
哲学、社会学Ⅰ、コミュニケーション論、英会話Ⅱ、ライフサイエンスⅠ、ライフサイエンスⅡ、
アカデミックスキルズ、在宅療養支援チーム協働論、国際協力論、感染症学、卒業研究論文

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所リハビリテーションの見学	3年後期	理学療法概論	1年後期
		地域理学療法学	2年前期
理学療法評価	3年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	1年後期
		理学療法評価学Ⅲ	2年前期
		理学療法評価学Ⅳ	2年前期
		理学療法評価学演習	3年前期
理学療法	4年前期	運動器理学療法学	2年後期
		運動器理学療法演習Ⅰ	2年後期
		運動器理学療法演習Ⅱ	3年前期
		神経理学療法学	2年後期
		神経理学療法演習Ⅰ	2年後期
		神経理学療法演習Ⅱ	3年前期
		内部障害理学療法学	2年後期
		内部障害理学療法演習Ⅰ	2年後期
		内部障害理学療法演習Ⅱ	3年前期
物理療法	4年前期	物理療法学	2年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	九州看護福祉大学 自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	肥後 成美
組織の開催頻度	1年に1～2度
組織の取り組み内容	・自己点検・自己評価の基本方針の策定に関する事
	・自己点検・自己評価の項目に関する事
	・自己点検・自己評価の実施に関する事
	・自己点検・自己評価の報告書に関する事
	・自己点検・自己評価の公表に関する事
	・教育職員研修（FD）に関する事
	・職員研修（SD）に関する事
自己点検・評価結果の公表	大学HPで公表（URL： https://www.kyushu-ns.ac.jp/about/jihee/ ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学長が指名した教授1名 ・ 学科長 ・ 基礎・教養教育研究センター長 ・ 教職課程運営委員長 ・ 各学科及び基礎・教養教育研究センターから選出された教育職員1名又は2名 ・ 教務課長
	改善の仕組みの実際	(1) 教務委員長がシラバスチェック担当者にシラバスチェックを依頼する。 (2) シラバスチェック担当者は、チェックリストに基づきシラバスを点検する。 (3) 修正が必要な事項が確認された場合は、教務委員長とシラバスチェック担当者の連名で授業担当者にシラバスの修正を依頼する。 (4) 修正依頼を受けた授業担当者は、修正作業を行い完了した場合、シラバスチェック完了届を教務委員長に提出する。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学は、令和3(2021)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、令和4(2022)年3月16日付けで「当評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。日本高等教育評価機構による改善点の指摘事項については、関係部署で検討し短期的に改善が可能である事項は、すみやかに改善策を実施し、その詳細について機構に報告書を提出している。また、中長期的な課題については、関係部局の代表者からなる全学的な会議を立ち上げ、当該会議において改善策を検討している。現在、当該会議において検討中の課題は、SD研修会の参加率の向上、危機管理に係るマニュアルの整備、IR室の体制と学内連携の強化などである。
 なお、機構によるリハビリテーション学科運営上の問題点の指摘は、特になかった。